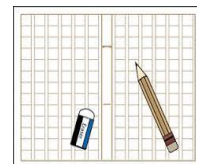




どくしょかんそうぶん か 読書感想文を書こう！



読書感想文とは、本を読んで、自分が感じたこと、考えたことを伝える文章です。
書くことによって、自分の考えが深まります。

① 本を選ぼう！

- ・ 自分のお気に入りの本
(何度も読み返している本や、強く心に残っている本)
- ・ 登場人物が、自分と身近に感じられる本
(同じ年くらい。好きなことやスポーツが共通。似た体験がある)
- ・ ノンフィクション(実際にあった話)
(疑問に思っていることや、知りたいことが書いてある本)



② 本を読もう！

- ・ 1回目は楽しみながら読もう！
- ・ 2回目は心が動いたところにふせんを貼ったり、メモをとりながら読もう。
(「感動した」「共感した」などはもちろん、「すごい!」「知らなかった!」「ハラハラした」「わたしだったらこうする/こうしない」など)



③ 書いてみよう！

物語のあらすじにそって順番に書くのではなく、感想文の中心になることを1つか2つ決めてから書いてみましょう。

〈たとえば〉

- ・ 一番心に残った場面やことから(なぜ自分の心が動いたのか)
- ・ 登場人物の生き方や考え方、行動について、自分と比べてどうなのか
- ・ 本を読む前の自分と、読んだあとの自分の気持ちの変化 など

〈組み立て方〉

中心にすることが決まったら、感想文を組み立てましょう。感想文を「はじめ」「なか」「おわり」の3つで組み立てるのも、ひとつの方法です。感想文の中心にすることを「なか」にもってきます。中心が2つある場合は、「なか1」「なか2」というように、「なか」が2つになります。

「はじめ」

〈たとえば〉

- 本を読んだきっかけ
- 本を読む前に題名を見て思ったこと
- 本を読む前の自分の気持ちや生活 など

「なか」

〈たとえば〉

- 一番心に残った場面やことから。なぜ、心に残ったのかを説明。
- 登場人物の生き方や考え方、行動のなかで、好きなところや、自分とにているところ、ちがっているところを考えて書く。
- ノンフィクションの場合は、新しく知ったことや、本を読む前に思っていたこととちがっていた内容を書く。
- 実際に自分で体験してみた感想を書く。 など

たいせつ！

読書感想文で一番大切なのは、その本を読んで自分（の考え）がどう変わったか、です

「おわり」

- 本を読む前と後で、自分の考え方が、どのように変わったか。
- 本から学んだことを、自分の生活のなかに、どのように活かしていくか。 など

かんそうぶん ④感想文のタイトルをつけよう！

感想文のタイトルは、自分が一番伝えたいことからつけると良いです。

- 感動したことや、テーマをタイトルにする
 - 心に残った言葉やセリフを題名にする
 - 「なぜ〜」「どうして〜」と疑問をタイトルにしてもおもしろい。
- 本を読んで学んだことを短い言葉にしてタイトルにしましょう。内容にあわせて、最後に決めよう。



【令和6年度 読書感想文課題図書】

【低学年の部】

- 『アザラシのアニユー』
あずみ虫(童心社)
- 『ごめんねでてこい』
ささき みお(文研出版)
- 『おちびさんじゃないよ』
マヤ・マイヤーズ(イマジネーション・プラス)
- 『どうやってできるの？
チョコレート』
田村 孝介(ひさかたチャイルド)

【中学年の部】

- 『いつかの約束 1945』
山本 悦子(岩崎書店)
- 『じゅげむの夏』
最上 一平(佼成出版社)
- 『さようなら プラスチック・ストロー』
ディー・ロミート(光村教育図書)
- 『聞いて 聞いて！
音と耳のはなし』
高津 修・遠藤 義人(福音館書店)

【高学年の部】

- 『ぼくはうそをついた』
西村 すぐり(ポプラ社)
- 『ドアのむこうの国への
パスポート』
トンケ・ドラフト(岩波書店)
- 『図書館がくれた宝物』
ケイト・アルバス(徳間書店)
- 『海よ光れ！』田沢五月(国土社)
3・11被災者を励ました学校新聞